

浪江町幾世橋地区

1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 営農再開地域における水稲・大豆・飼料作物の複合経営体としての収益確保
- 水田・畑地における水稲・飼料作物との輪作体系の構築
- 震災後の作付再開ほ場における大豆の安定収量確保



2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【作付面積】
(R5) 水稲：25.0ha、大豆：15.0ha、WCS用イネ：7.0ha、デントコーン：5.0ha
(R6) 水稲：20.7ha、大豆：18.0ha、WCS用イネ：7.3ha、デントコーン：10.0ha
- 浪江町内でR2年度より営農再開後、R4年度から大豆栽培に取り組んでいる
- その他、R5年度よりWCS用イネやデントコーンなど、飼料用作物の栽培にも広く取り組んでおり、幾世橋地区の中心的な担い手組織

3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

<需要に応じた生産の取組>

- 主要な出荷先であるJAで要望されている大豆品種「里のほほえみ」を水田・畑地で栽培

<導入した農業機械、営農技術>

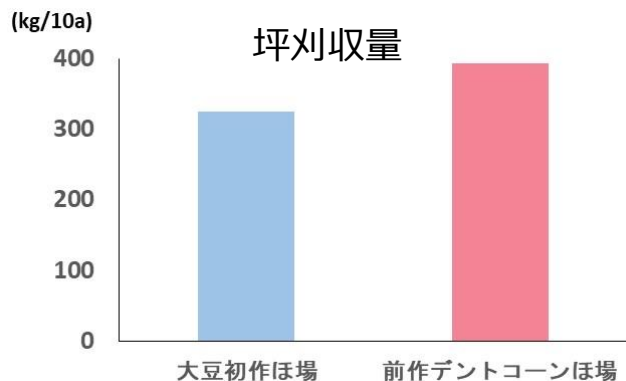
- 営農再開支援事業の活用により、汎用コンバイン、ブームスプレーヤー等を導入
- 震災後、管理耕作を行っていた水田ほ場の大豆初作ほ場と、前年度デントコーンを作付していたほ場における生育状況・収量の比較を実施



4 取組成果

<管内における大規模大豆作付と、関係機関との連携体制構築>

- R6年度、浪江町内の生産者として唯一、水田・畑地で計18.0haの大豆を栽培し、播種・中耕培土・病害虫防除等の作業を適期に実施することができた。
- 前年度、デントコーンを作付したほ場では、大豆初作ほ場より坪刈収量が多収となった。適正な栽培管理により、全体収量も約180kg/10aと多収となった。



全体収量
180kg/10aを確保

5 課題（7年度のポイント）

- 条件不利の水田でさらなる収量向上を図るため、難防除雑草対策と継続した病害虫防除の徹底を図る
- 飼料作物と大豆のローテーション体系のモデル確立に向けて、収支の試算をとりまとめる